

令和3年度宮崎県総合計画審議会第1回専門部会 (くらしづくり)

日時 令和3年11月10日(水)
11:05~12:00
場所 県庁防災庁舎74号室

次 第

- 1 開会
- 2 会議録署名委員指名
- 3 議題
 - 長期ビジョンの策定に向けた主な論点
- 4 その他
- 5 閉会

配布資料

資料

- 1 本日の論点「くらしづくり」

参考資料

- 1 次期宮崎県総合計画の策定について
- 2 時代の潮流
- 3 これまでの審議会、市町村会議における主な意見等

宮崎県総合計画審議会 専門部会（「くらし」づくり部会） 委員名簿

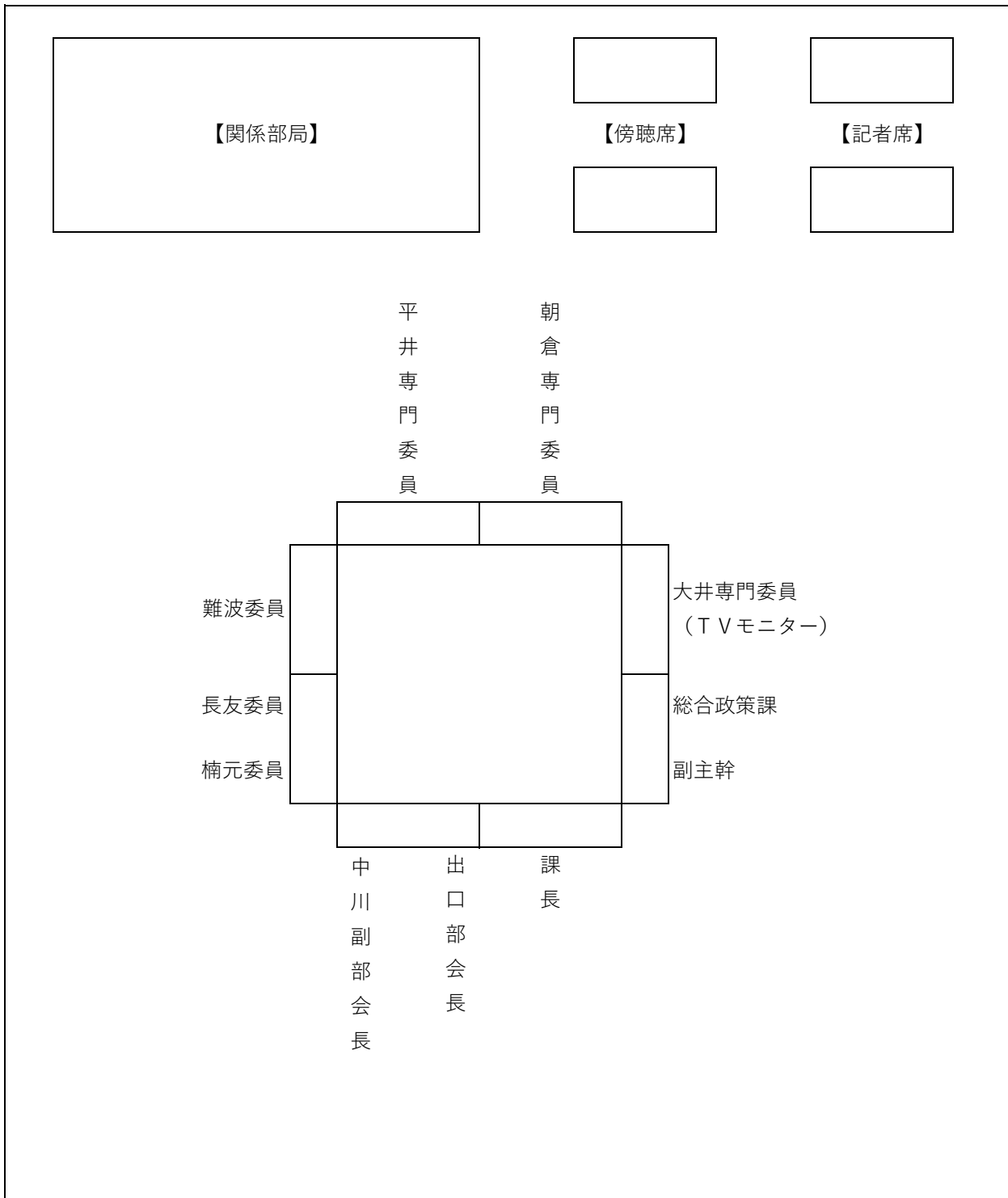
(五十音順 敬称略)

区 分	氏 名	役 職 名	備 考
委員	河野 雅行	公益社団法人宮崎県医師会会長	欠席
	楠元 洋子	社会福祉法人キャンパスの会理事長	
	出口 近士	国立大学法人宮崎大学地域資源創成学部特別教授	
	中川 美香	株式会社宮崎日日新聞社生活文化部長兼論説委員	
	長友 宮子	株式会社ナチュラルビー代表取締役	
	難波 裕扶子	株式会社シンク・オブ・アザーズ代表取締役	
専門委員	朝倉 脩二	都城市庄内地区まちづくり協議会事務局長	
	岩田 大志	延岡市島浦町地域おこし協力隊	欠席
	大井 尚司	国立大学法人大分大学経済学部教授	
	平井 泉	宮崎県防災士ネットワーク理事長	

令和3年度宮崎県総合計画審議会第1回専門部会（くらしづくり） 配席図

令和3年11月10日（水） 11:05～12:00

県庁防災庁舎 防74号室



【本日の論点②】 くらしづくり

1 住み続けられる地域づくり

- ▶ デジタル技術の進展により行政手続きや医療、教育など様々な分野でオンライン化が進み、暮らしに必要なサービスが広域的に提供可能になることが予想される。
- ▶ そのような中で、各地域において持続可能な生活圏を形成するためには、機能やサービスによって、身近に必要なものや、集約できるもの、広域的に配置すべきものを整理し、住民とサービスとを結ぶオンライン化と移動手段の確保が重要。
- ▶ できる限り今の地域に住み続け、どのような機能やサービスを維持していくべきか。

2 人生100年時代への対応

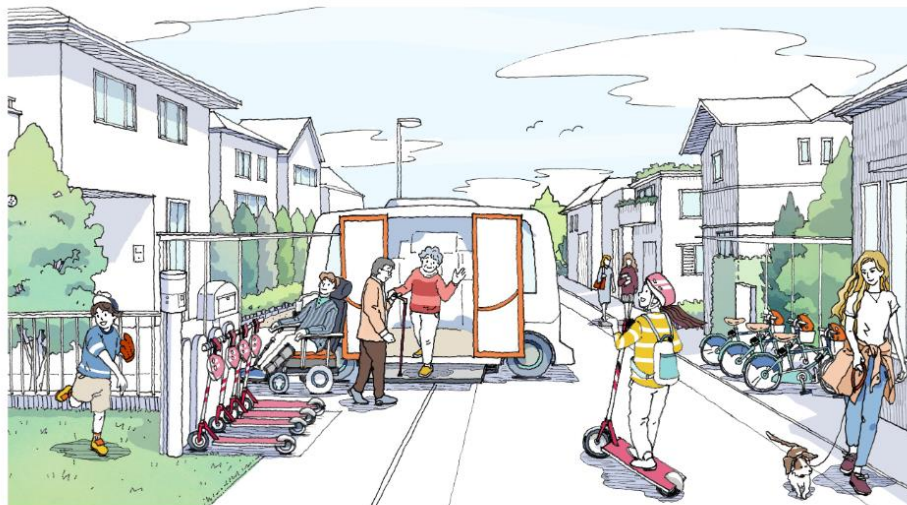
- ▶ 今後は医療技術の進歩により、平均寿命が延伸するだけでなく、元気な高齢者が増えてくるものと予想される。
- ▶ これに伴い、現在の65歳・75歳という高齢者の年齢ラインの大幅な引き上げや、そもそも年齢で線を引かないエイジレス社会が到来する可能性が高い。
- ▶ このような社会において、元気な高齢者の活躍のあり方はどうあるべきか。

地域の将来像イメージ

マイカーを持たなくても便利に移動できるモビリティサービス(MaaS)が、
すべての人に移動手段を提供する



様々な交通モードの接続・乗り換え拠点(モビリティ・ハブ)



マイカーを持たなくても便利に安心して移動できるモビリティサービス

2040年、道路の景色が変わる(国土交通省資料)

具体イメージ

- 様々な交通モードの接続・乗換拠点(モビリティ・ハブ)が道路ネットワークに階層的に整備され、自動運転バス・タクシー、小型モビリティ、シェアサイクル等のシームレスな利用が実現
- 道の駅等を拠点に提供される無人自動運転乗合サービスが、中山間地域において高齢者等に移動手段を提供
- オンデマンド自動運転車の利用者に対し、到着時間や利用可能な乗降スペース等の情報を提供することで、高齢者や障がい者等にドアツードアの移動サービスを提供
- バスタの整備やSA/PAの乗り継ぎ拠点化により、高速バスサービスが全国ネットワーク化

最近の取組例



日本で初めて本格導入された道の駅を拠点とした自動運転サービス
(道の駅「かみこあに」(秋田県上小阿仁村))
※全国18箇所での道の駅等を拠点とした自動運転サービスを
実証(2017年~2019年)



公道上で実施された電動キックボードの
シェアリング社会実験
(千葉県千葉市)



公道を活用した小型モビリティの
シェアリング社会実験
(東京都千代田区)



バスや鉄道等の集約型公共交通ターミナル
(兵庫県神戸市)

※全国17か所で集約型ターミナル(バスタ)を推進中(2020年4月時点)
出典: 国道2号等 神戸三宮駅前空間整備事業計画

